

## オープンチョイスのインパクト (Robin Peek)

Peek, Robin. The Impact of Open Choice. *Information Today*. Vol. 23, No.7, Jul/Aug 2006.

<<http://www.infotoday.com/it/jul06/Peek.shtml>>

PLoS Biology に先月発表された調査の知見<sup>1)</sup>は、著者支払型 (author-pays) オープンアクセス (OA: Open Access) アプローチで出版された論文が、同一雑誌に出版され、出版後 6 ヶ月で公開される論文よりも多く引用されることを証明した。

論文は *Proceedings of the National Academy of Sciences* (PNAS) に出版されたものである。このハイブリッド雑誌 (OA の仲間内ではオープンチョイスとして知られる) では、著者 (あるいはそれらの助成者) は、即座の無料アクセスのため 1,000 ドルを支払うことができる。2004 年 6 月に、PNAS は著者にこのオプションを利用できるようにした最初の雑誌の一つとなった。

トロント大学の健康政策専門家である Gunther Eysenbach は、自称 OA 出版の「穏当な」提唱者である。「私は、両方の事業モデル、著者支払 (author-pays) と読者支払 (reader-pays) に将来とも役割があるだろうと思う。私は[OA を]伝道しない」と彼は述べた。また、Eysenbach は、*Medscape Today* のインタビュー<sup>2)</sup>で「5 つの主要な総合医学雑誌の 1 つに出版可能な一流論文を持っていない場合、有料の専門雑誌よりも OA 雑誌に出版する方がずっとましだ」と注意している。

## 利害の潜在的な対立 (Potential Conflict of Interest)

また、Eysenbach は OA 雑誌 *Journal of Medical Internet Research* (JMIR) の編集者である。PLoS Biology の上席編集者 Catriona MacCallum と編集長 Hemai Parthasarathy は、利害の潜在的な対立に同意した<sup>3)</sup>。「私たちには、明らかに私たちの存在を支持する出版の成果について元々強い関心がある。さらに、論文の著者はオープンアクセス雑誌の編集者である。しかし、場合によって利害の潜在的な対立は厳密さの保証に役立つ。」

PLoS Biology の MacCallum および Parthasarathy の論説<sup>2)</sup>によれば、「この場合、水準がより高くない場合は、その論文と私たちが出版する他のいかなる研究論文と同じ水準であると保証することに強い関心を持っている。結論は当該分野に著しい進展をもたらさなければならないし、しかも、研究は、それらの結論を支持する適切な根拠に裏付けられた、技術的にも健全なものでなければならない。」また、彼らは、「私たちの研究論文と同様に、評価プロセスを通じて適切な専門性を持つ学術編集者に助言を求めた。本論文の場合は、テネシー大学の情報科学教授 Carol Tenopir である。」と述べている。

## インパクトが 2 倍

Eysenbach は、1,500 論文がそれぞれ後の研究で引用されている回数を観察した。「私は論文レベルのアプローチを選択した」と彼は述べ、「OA 出版と非 OA 出版の両方の選択を提供する同一雑誌 (PNAS) の論文コホートの計量書誌学的インパクトを比較することによって様々な論文や著者の特性を調整した。」

彼は、出版後 4 ヶ月から 10 ヶ月で、OA 論文が他の論文に比べてほぼ 2 倍以上引用されることを発見した。10 ヶ月後から 16 ヶ月後では、この引用比率は他の引用に比べて 3 倍に上昇する可能性が高い。JMIR に 5 月 22 日掲載した補足的な論説<sup>4)</sup>で彼は時間が立つと格差が広がることを示唆するデータを提供している。「212 の即座に利用できる雑誌 OA 論文の 36 (17.0[%]) はセルフアーカイブされているが、1,280 の雑誌サイトの非 OA 論文のうち 121 (10.6[%]) のみがセルフアーカイブされているに過ぎない (つまり、もともと OA として出版される論文はセルフアーカイブしているようなものだ)。

Eysenbach によれば、「PNAS は広範に利用できる雑誌であり、図書館を通じて研究者のほとんどがアクセス可能なので、OA 効果の強さはまったく思いがけないものである。さらに、出版後 6 ヶ月たてば非購読者も論文を無料で利用できる。」「OA 出版の効果は、雑誌が広範に利用できない領域や、論文が「有料？」のままのコントロールグループから発生している領域で高いかもしれない」と彼は示唆した。

他の調査は引用インパクトについての OA の効果を検討しているが、それらは機関リポジトリにおけるセルフアーカイビングを重視している。OA 雑誌の調査は、これらの雑誌の大半は新しく、評価の定まった雑誌との比較は危険であると注意した。計量書誌学的調査は実施が簡単ではなく、未熟さ故に単純化し過ぎる可能性がある。しかしながら、PNAS のような評価の確定した雑誌の利用は、厳密な比較をもたらす。

### オープンチョイスの選択

また、本調査は少なくとも一部の著者がオープンチョイス・モデルに関心を持っていることを実証した。1,492 の原著論文のうち、212 (14.2%) は OA として即座に出版された。論文の著者は 39 カ国にわたり、その 65.8% の過半数は米国であった。全論文の 95% は 12 カ国の著者で構成されていた。そのうちの OA について日本が最も高い割合 (19.4%) を持ち、イスラエル (18.8%)、ドイツ (15.7%)、そして米国 (15.5%) が続いた。

長年にわたる OA の推進者である Stevan Harnad は、「実際、この小規模で雑誌を特定した標本から得られた新規な知識は、(1) OA の長所がどれくらい早くからそれ自身で示されるかの歓迎すべき知見 (2) 筆頭著者と最終著者の OA の慣行の相違についてのやや明確でない一部の知見 (3) 「その分析は同じ雑誌の OA 論文に比べてセルフアーカイブした論文の引用が少ないということを証明した？」という結論が信頼できるように大規模標本での再現調査が絶対に必要な異論のある知見のみであった。」と答えた<sup>5)</sup>。

この報告が PLoS Biology に発表されたことは興味深い。調査の出版後に、著者は JMIR の論説で、彼は OA の巨人である PLoS や BioMed Central の財政上の持続性に

疑問がある、と述べた。「しばしば忘れられていることは、これらの出版者が唯一のオープンアクセス出版者（彼らは最初のオープンアクセス出版者ではない。*BMJ*, *Medscape* あるいは *JMIR* が本当の先駆者である）でもなく、彼らは典型的な代表でもないのである」と彼はいった。「オープンアクセス出版者の大半は無駄のない出版モデルで運営され、それらの多くは財政面で持続可能である。」

PLoS Biology の編集者は、PLoS Biology は OA についての計量書誌学的研究を発表する定期的な本拠地となるつもりはないと説明した。OA 研究者にとって次の査読済調査がどこに発表されるかわからないのは皮肉なことである。というのは、大半の研究者が査読雑誌（つまり計量書誌学的研究の当然の場所）への即時アクセスを望んでいるからだ。

## 注

### 1) Eysenbach, Gunther.

Citation Advantage of Open Access Articles.

*PLoS Biology* Vol. 4, No. 5, DOI: 10.1371/journal.pbio.0040157

### 2) Expert Interview - Open-Access Journals:

An Expert Interview With Gunther Eysenbach, MD, MPH

*Medscape Critical Care*, Apr 2006.

<http://www.medscape.com/viewarticle/523727?rss>

### 3) MacCallum, Catriona J.; Parthasarathy, Hemai.

Open Access Increases Citation Rate.

*PLoS Biology* Vol. 4, No. 5, DOI: 10.1371/journal.pbio.0040176

### 4) Eysenbach, Gunther

The Open Access Advantage

*Journal of Medical Internet Research* 2006 (May 15); 8(2):e8

### 5) Read eLetters responding to this article:

MacCallum CJ, Parthasarathy H (2006) Open Access Increases Citation Rate. *PLoS Biol* 4(5): e176.

\* PLoS, Pipe-Dreams and Peccadillos

Stevan Harnad (16 May 2006)